



◆大使からの活動報告<2016年7月>

(ミニ・オペラ・リサイタル他)

在グアテマラ日本大使

川原 英一

◆グアテマラ赤十字社への日本政府からのジカ(感染症)対策支援:



7月5日午前、赤十字社本部で当国のジカ熱対策支援のため、日本政府から国際赤十字を通じて当国赤十字社の啓発人材の育成研修・啓発資料の作成経費、発生地域での予防対策

機材の供与について同社で記者発表を行いました。現在、当国赤十字社は職員400名、ボランティア千5百人が、感染症対策などのため全国で活躍中です。

◆最近訪日した若手研究者等による「グアテマラから見た日本」に関するパネル会合



7月6日、ラファエル・ランジバール大学の国際関係学部学生・教職員、当地メディア関係者約百数十名が集まり、日本政府の招聘により今年3月に訪日した当国の若手研究者、元国費留学生による日本を語るパネル会合があり、当方も出席しました。パネリストからは、日本で見聞きした中で印象に残る

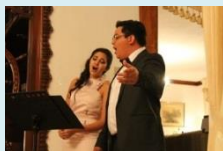


場所として広島原爆ドーム、東京大田区リサイクル・ゴミ処理工場などの紹介があり、当国の河川汚染、ゴミ処理対策の憂うべき現状を取り上げ、日本の戦後発展と生活改善運動などについて、



大変に興味深い内容が、パワーポイントにより紹介されていました。併せてグアテマラに対する日本の支援の現状について、当方からパワーポイント資料を利用した講演も行いました。生徒、当地プレスの関心を大いに惹いた様子でした(左上、当地紙報道例)。

◆ミニ・オペラ リサイタル



7月8日夕、大使公邸で「日本とグアテマラの夕べ」と題するチャリティー・オペラ リサイタルを開きました。注目の当国若手オペラ・テノール歌手アンドレ・マロキン君(左写真、右側の方)、ソプラノ歌手ソフィアさん(左写真、

左側の方)、ピアニストのマリアさんに、イタリア、日本、グアテマラの大変に人気のある10曲を選んで素晴らしい歌声を披露して頂きました。

アンドレ君は、昨年、日本のナショナルデー・レセプションや日本と当国との交流年開始式典の際、両国国歌を独唱してもらっており、その後、昨年夏から4年間の予定でオペラ歌手としてイタリア研修中です。今回、





夏期休暇で帰国する際、同人から当方へ申し出があり、今回の楽しいオペラ・リサイタルが実現できました。ゲストの一人であるカブレラ当国保健大臣(右写真、右から二人目の方)は、日本の曲(坂本九の上を向いて歩こう、小椋佳の愛燦々)



に特に感激をされて、口ずさんでおられました。ご参加頂いた当地の方々から大変に素晴らしいリサイタルであったと賞賛頂きました。集められた寄付は、日本人会婦人会から国立ルーズベルト病院で難病治療を受けている子供患者が必要とする薬を供与する予定です。



◎外交団大使夫人のための和服着付け

7月11日、近々、御帰国予定の Khadija モロッコ大使令夫人(左端写真、



和服の方)をメイン・ゲストに迎えて、公邸での各国大使夫人らをお招きして和服着付けの集いを家内が主宰しました。和服にご関心をお持ちのチリ、エクアドル、ペルー、

ウルグアイなど各大使夫人方々、外交団夫人会所属の当国御夫人方、日本の御婦人方もお見えになりました。家内が和服について簡単に説明した後にモロッコ大使夫人の着付けを行いました。モロッコ大使夫人は以前から和服に高い関心をお持ちで、一度、本格的に和服を着てみたいという強いご希望があり、実現しました。その後、モロッコ大使令夫人のための送別ランチを日本食で仲の良い大使夫人などと味わって頂き、皆様から大変に好評でした。

◆米・仏のナショナルデー・レセプション

過去 1 ヶ月の間に、米国独立記念日や仏のナショナルデー(バスティユ・デー)を祝うレセプションが各大使公邸でありました。特に、当地米国大使館主催のレセプションは、毎年、公邸の広大な裏庭を使用して行い、ビール・ハンバーガー・ホットドッグなど提供する当地企業の出店も多くあり、お祭り騒ぎの様相でした(左写真 3



枚は今年の例)。昨年はニューオリンズ市をテーマにジャズ生演奏があり、独立 240 年目を迎えた今年は、シカゴ市をテーマにして、ジャズ生演奏と野球場(シカゴカブス本拠地)の演出があり、大層盛り上がりおりました。仏大使



館主催の独立記念レセプションも、14 日にあり、こちらも広大な公邸裏庭に大テントを張って行われ、室内楽団が生演奏する中、当国の方による両国国歌の独唱がありました(右上写真)。当日には、ニュースでの大惨事があり、仏大使に当方から哀悼の意をお伝え致しました。

◆当国自治体関係者の日本での研修出発前の壮行会

7月15日、市内ホテルで訪日研修員17名の壮行会があり出席しました。当国開発企画庁(SEGE Plan)のモイール長官他同庁関係者、



富安 JICA 事務所長他、訪日予定の7市の研修員達その他、当地メディアが取材に来てくれました(右横写真:主要



紙報道記事例)。当国の西部3県の自治体関係者への生活改善に関する訪日研修は2013年から開始されており、今回も筑波及び長野県松川町などで研修予定です。



■西部3県自治体4市長との懇談

15日夕、サンマルコス県、キチェ県、ウエウエテナンゴ県の4市長を公邸にお招きしました。



各市長は16日から2週間にわたり日本での生活改善をテーマとした研修に参加されます。市長さんに市長として最大の取組み課題をおたずねしたところ、水源から飲料水の住民への供給システムの整備、ゴミ処理、下水処理、道路の整備、病院の整備などがあるとお聞きしました。キチェ県ウspanタン市長さんからは、15年前に日本

から寄贈された救急車が、緊急時に住民のために大いに役立って来ていますとのお話がありました。モラレス新政権になって、何か変わったことはありますか、との当方質問に対して、汚職摘発が進み、政治家が法令を良く順守しなければいけない、という気風が高まった、また透明性が高まりつつあり、従来、政府予算で自治体に交付される予算は全体の1割程度であったが、この交付比率が、今後、増えることを期待しているとの発言がありました。当方から、日本の戦後の発展とグアテマラとの交流の歴史を紹介し、日本の対グアテマラ支援を説明したところ、各市長さんからは、大変に参考になった、日本の支援には深く感謝したいとの言葉が相次ぎました。各市長共に、和食は今回初めての経験でしたが、市長さん達は箸を使い、日本食に挑戦しておられました。日本での生活改善に関する研修が、今後の市長さんの自治体運営に大いに役立つことを期待しています。

◆中村金沢大学教授の来訪

22日、当国考古学博物館で開催中の中米地域考古学学会研究発表等のため当国を訪問中の金沢大学中村誠一教授に当館を訪問頂きました。

現在、中村教授ら金沢大学が JICA 北陸と進めているユネスコ世界複合遺産であるマヤ・ティ





カル遺跡の周辺地域住民の生活向上と観光促進のための草の根プロジェクトを実施されています。金沢大学が実施しているこの草の根プロジェクトが、JICA が各国で実施している草の根

プロジェクト中の最優秀プロジェクトとして紹介されていること、また、金沢大学と学術交流を進めている当国有名私立大学（デルバジェ）やサン・カルロス国立大学との今後の交流予定などについての現状をお伺い致しました。当方から、日本とグア

テマラの諸大学間で学術交流が益々活発になることを大いに期待をしておりますと申し上げました。

(了)